

会 議 結 果 報 告 書

令和8年7月17日

会議の名称	令和8年度 第1回 舞鶴市都市計画マスタープラン検討会 (都市計画審議会)	
種別	☒ 附 属 機 関 ☐ 懇 話 会 等	
開催日時	令和8年7月6日 (月) 9時30分 ~	
開催場所	舞鶴市役所 中会議室	
出席者	7 名	
議題	○都市計画マスタープラン検討会 委員紹介 ○現行の都市計画マスタープランについて ○改定までの流れ ○今回の見直しポイント	
公開の区分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍聴者数	1 名	
審議結果 及び 主な意見等	別紙議事録のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備考		

担当課	舞鶴市 建設部 都市計画課 TEL (0773) 66- 1048
-----	--------------------------------------

令和8年度 第1回舞鶴市都市計画マスタープラン検討会
＜＜議事録：概要版＞＞

□日 時：令和8年7月6日（月）9時30分～

□場 所：舞鶴市役所 中会議室

□委 員：

【出席】 7名（+オブザーバ 3名）

舞鶴工業高等専門学校 教授

東洋大学 教授

一般社団法人 まちのとびら 代表

舞鶴青年会議所 理事長

舞鶴市老人クラブ連合会 会長

舞鶴市社会福祉協議会 事務局長

農業従事者

京都府中丹広域振興局農林商工部 農商工連携・推進課長

京都府中丹広域振興局建設部中丹東土木事務所 技術次長

京都府港湾局 港湾企画課長

尾上 亮介

志摩 憲寿

高田 智哉

坂根 一彰

新谷 一幸

仲川 真広

森 剛

生田 淳一

吉岡 浩昭

桜 智徳

□内容

「都市計画マスタープラン検討会 委員紹介」

「現行の都市計画マスタープランについて」

「改定までの流れ」

「今回の見直しポイント」

＜各委員からの意見＞

現行のマスタープランについて

○「複眼都市」という特徴を持つ舞鶴市において、都市計画マスタープランの中で東西を一つの市街地として捉えていく方針についてあまり説明がなかったので、東西を別々に考えていくように聞こえてしまった。

⇒これまでは東地区・西地区それぞれの個別方針のみを定めていたが、今後の公共施設の維持管理などを考える上でも、東西を一つの市街地として捉えていく必要があるため、まず共通の「東西地域」という方針を定めた上で、東西それぞれ個別の特性に合わせたまちづくり方針を現行計画では定めている。

○広域連携で、具体的な舞鶴市の役割はあるのか。

⇒広域連携とは、京都府北部全体（5市2町）を一つの大きなエリアとして捉え、各分野で連携を図りながらまちづくりを進める。舞鶴市独自の役割を限定するのではなく、各地域の拠点を連携させ、「面」で捉えた広域的な集客・展開を目指す。地域全体を一つの大きな町として活性化させ、多くの人を呼び込めるまちづくりを継続的に推進する方向性である。

○コンパクトシティ+ネットワークを推進する一方で、周辺地域が限界集落化し、取り残されてしまうのではないかという強い懸念がある。

○周辺地域で地域バスを運営しているところもあるが、中心部と周辺地域を一体化させるためには、住民が利用しやすい地域公共交通を、行政として進めていくことが大事。

- 大浦・加佐地区は方針があるが、東地区・西地区周辺の集落をどう巻き込んでいくかがまちづくりにおいて非常に重要である。
- 「コンパクトシティ+ネットワーク」の方針および東西連携には賛成。
- 西地区、東地区の周辺地域の住民のまちなかへのアクセスが不便になってしまう懸念があり、公共交通再編における重要な見直しポイントである。現在の車中心の生活から、公共交通を少しでも利用してもらうような行動変容を促すためにも、まちづくり方針と併せて公共交通整備の方針を具体的に示す必要がある。
- 多くの地方都市を見てきているが、商店街のアーケードがこれだけ残っているのはある意味資源だと思う。昭和レトロな建物などを活用している様子も見ており、中心市街地には活用可能な資源がまだ眠っている。

改定までの流れ、今回の見直しポイント

- 都市施設（公共施設）をどう整備・整理していくかということがあまり謳われていない。見直しポイントの項目に入れるべきでは。
- 市全域を対象とするマスタープランである以上、まちなか以外の地域に対しても、今後どのような方針でまちづくりを進めるかというポジティブな基本方針を明示すべきである。
- 「コンパクトシティ」という言葉から、強制的に「まちなかに住め」と言われているような印象を受けてしまう。
- 「コンパクトシティ」の計画において、東地区・西地区・大浦・加佐といった特定の地区以外、特に都市周辺部（池内、志楽、多門院、与保呂など）の将来像が曖昧であり、住民は不安や疎外感を感じる。
- 周辺地域は現状維持さえ厳しい状況であり、地域が見捨てられてしまうのではないかと不安がある。
- 高齢者は利便性の高い市街地へ、若い世代は周辺部へ住むといった「住み分け」が実現できると理想的である。高齢者は交通弱者でもあるため、移動などの面でしっかりとした支援が必要である。
- 一部の地域だけでなく、市全体を俯瞰した都市計画プランを策定してほしい。
- 3D都市モデルをプロモーション動画に活用する、市民が見たときに、大浦や加佐など自分の住んでいる地域がないな？と思われるんじゃないかと懸念している。技術的には難しいかと思うが、そう思わせないような説明の仕方が大事。
- 10年後の未来について、「自分の住む地域がどうなるのか」という住民の不安に対し、納得できる明確な将来像を示す計画が必要。
- 自分の住む地域では農地の過半数が遊休地化しており、農業従事者も極めて少ない上に、誰か一人が離脱すれば連鎖的に辞めてしまうような、非常に脆弱な環境にある。
- 方向性自体はまちがっていないと思う。まちなかの計画はある程度固まっていると思うので、今後は取り残されがちな周辺地域をメインに据えて検討する必要があるのでは。
- 高齢化や農業従事者の減少が深刻である中、若い世代が懸命に活動している地域もあるため、周辺地域が疎外されることのないよう策定してほしい。

- 「JR駅を中心とした賑わいの創出」という方針について、そもそもどのような状態が「賑わっている状態」なのかを定義し、検討する必要がある。
- 駅周辺のみが賑わっているのではまちとしては良くないのではないか。そこからまちの内外へどのように動線を広げていくかが重要である。
- 高齢者の視点だけでなく、子どもたちが住みやすく、住みたいと思えるまちとはどのような場所か、どのような未来を目指すのか、が重要になってくる。
- 舞鶴青年会議所としても、それが原因の一つであるとは限らないが、コロナ禍において人と人、また人と地域との繋がりといった地域コミュニティの希薄化は間違いなく問題であると捉えている。青年会議所としても、人と人を繋いでいく取り組みを進めていくので、その点で力になれば。市全体として、地域コミュニティという単位をこのマスタープランの中に盛り込んでいければ。
- 文字情報と異なり、映像は全員に同じイメージを共有させるため、より慎重な検討が求められる。
- 人口減少という現実を受け入れた上で、各地域が希望を持てるプランづくりが重要。
- 高齢者、免許返納者にとって、医療機関や生活必需品を買うためへのアクセス確保は切実な問題であり、その方向性が少しでもマスタープランに書けたら。
- 相続や空き家問題が深刻化している現状において、利活用を望む人への税制支援などの仕組みがあれば、若い人のチャレンジを後押しできる。
- 都市計画マスタープランの改定は、上位計画である舞鶴市総合計画の改定も並行して進んでいることから、この検討会の中で総合計画についても理解を深める必要がある。マスタープランの内容が総合計画と乖離しては議論が噛み合わない。総合計画との整合性を確認するための資料の提示をお願いしたい。
- 総合計画では、多くのアンケートを通じて若い世代の声も反映されている。都市計画マスタープランにおいても、大人たちの議論だけでなく、次世代の声も反映させた内容にしてほしい。

欠席の委員の皆様の意見

- 現在のマスタープランに基づいて実施してきたこのまちづくりの事業や活動が、どんな成果を出したのか、検証するような内容を盛り込んだらどうか。
- 各地域の特性を生かした地域ごとの魅力を発信できるようなできればいいんじゃないか。
- 社会人のための学校など、社会人がスキルアップできるような学べる場所を位置づけていければ。
- コンパクトシティは進めていくべき。将来の舞鶴市のインフラの維持が難しい。
- 綾部、福井、丹後など多方面からアクセスしやすい西舞鶴駅の前に図書館を整備することはとても意味のあることで、人流など波及効果を活用していくべき。
- 西のまちなかは駐車場が全然足りてない。駐車場を整備していくような方針が必要ではないか。観光地の周遊に関しては駐車場を一つの拠点として一旦まちなかに入ってもらって、そこから歩いたり公共交通が繋がるような形のまちづくりをしていくべきではないか。

- 現行のマスタープランの検討の際、子ども向けのアンケートを実施した。まちづくりを知ってもらう意味でも、今回も取り入れてはどうか。
- コンパクトシティのコンパクトという言葉が非常に曖昧で、ネットワークの部分が伝わっていないと感ずることがあったのでしっかり伝えるべきではないか。
- 動画のプロモーションについては、皆さんに見てもらえるかという仕組み作りが非常に大事で、だから作ったけど見てもらえない、評価されないということにならないように、しっかりそこは取り組んでほしい。